

三愛学舎

研究テーマ

- ・様々な障がい特性や多様な教育的ニーズに応えるために、生徒一人一人を共通理解し、現在および卒業後の生活につながる適切な教育・支援ができるよう、職員の専門性の向上をめざす。
- ・「主体的・対話的」「協働的」を意識した授業づくりをめざす。

1 全体研究

(1) 生活（本科）と総合探求等（専攻科）の研修
生徒が主体的・対話的、協働的に取り組む授業をめざし、生徒個々の理解を深めるとともに、集団学習での生徒同士の関わりや学び合いについて研鑽した。

①職員各自が小集団での学習の中から1ケースとりあげ、本科は学年単位で、専攻科は2学年合同で年2回、学習内容や目標、手立て、評価と今後に向けて、などについて検討を行った。

②上記のケースの中から本科は各学年2ケース、専攻科は2ケース（計5ケース）を選定し、全職員を5グループに分けて、年3回グループ検討を行った。

③研究授業

上記5ケースのうち、本科1ケース、専攻科1ケースについて、グループ検討メンバーによる授業見学を年2回実施し、その後に全体で研究授業を行った。

(2) 新職員ケース検討

新職員の担当生徒1ケースについて、全職員で検討を行った。

2 講演会

演題：「思春期・青年期の発達障害者理解と支援
～自己と向き合うことを支える～」

講師：岩手大学 教育学部 特別支援教育科
准教授 滝吉 美知香 氏

期日：令和元年9月27日（金）

参加者：30名

3 研修会

(1) 奥中山学園との合同研修（7月29日）

障害児入所施設奥中山学園の職員と合同で実施した。

テーマ：三愛学舎・奥中山学園で大切にしてきたこと～具体的な実践を基に～

内容：

〈三愛学舎の発表〉

・三愛学舎の意義と歴史

・三愛学舎の重点目標について～主体的・対話的、協働的をキーワードに～

〈奥中山学園の発表〉

・コモンセンスペアレントについて

～具体的な事例をもとに～

〈小グループでの意見交換〉

・各発表への質疑応答など

(2) 2年目職員研修（11月～12月）

研究授業（他職員の授業見学、他職員による授業見学）を実施した。

4 個人研究

1人1回は外部の研修に参加することとし、研修報告書を作成した。

5 刊行物

研究集録を刊行していません。